

## 蔵書診断 結果報告

### ●診断領域

・芸術（70：芸術、71：彫刻、72：絵画、73：版画、74：写真、75：工芸）

※H24.11 実施の利用者アンケートで不満足が多く、専門書の中で「満足」の回答が唯一なかった分野であり、早急な対応が必要と思われたため

### ●方法

診断者：岐阜県美術館学芸員

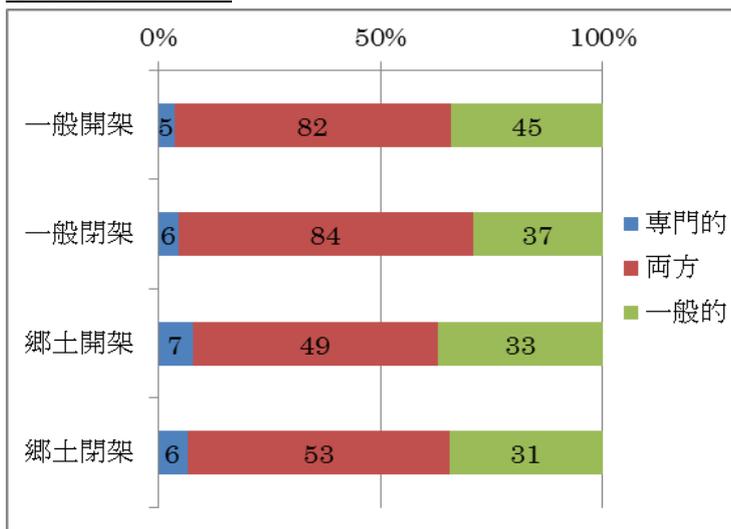
診断時期：平成25年8月30日（2名来館）、平成25年9月19日～平成26年1月22日（リスト確認）

診断方法：直接来館、または各分類ごとの資料のリストを確認いただき、「蔵書診断書」を提出。

- ・各分類、書架ごとに蔵書構成は一般向けか、専門的か、両方揃っているかの評価
- ・今後の留意点（収集するとよい分野、著者など）
- ・所蔵場所の変更が必要な資料 などについてコメントをいただく。

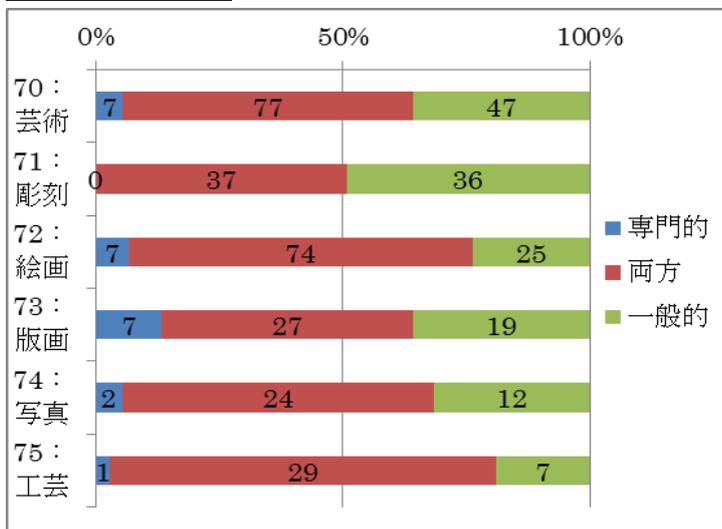
### 診断結果

#### ●各書架について



- ・どの書架においても専門的な資料、一般的な資料がともにそろっているという評価が多かった。
- ・専門的な資料よりは一般的な資料の方が多いとの評価であった。

#### ●各分類について



- ・710：彫刻のみ専門的との評価がされなかった。
- ・各書架の評価と同じく、専門書も一般書もどちらも揃っているとの評価が多かった。

## ●評価者からの総評

- ・分類に誤りがあるのではないかとされるものがしばしば見受けられました。図書館を利用する際に配架に疑問を感じることはありますが、このことが原因だと考えられます。
- ・特別文庫についてですが、県内にゆかりのある人からの寄贈といっても、書籍の内容としては郷土と関係のないものも含まれており、過度に複雑になっているように感じます。図書館利用者にとっては寄贈者が県内かどうかということについて知ることはメリットが無いと思います。より利用しやすくするために、可能であれば分類の見直しをお願いしたいところです。
- ・蔵書数としてはアトライブラリーではないのでこれだけあれば十分だと思います。
- ・美術に関する検索をしても違うジャンルから関連図書がヒットしたりして意外な発見があったりと、美術書の少なさをカバーしてくれていることがあります。
- ・しばしば図書館に足を運びますが、「一般書架」の美術関係の蔵書が貧弱に見えてしまうのが、現在の満足度につながっているのではないかと考えています。書庫に保管されているものが多く、一般の人にはそれが伝わりづらい・利用しづらいのではないのでしょうか。
- ・またシリーズものも分類がまちまちで揃っていないというイメージが伝わりにくいのも残念に感じています。例えば、「すぐわかる、琳派！」という類の書籍を「り」始まりで分類しているため、「すぐわかる」シリーズとしてまとまりで書籍を探せません。それですべて統一されているかということ、シリーズ名で頭文字をとって分類されている場合もあり、統一感にかける印象があります。

## ●7類蔵書診断をうけて

(2月図書整理日に実施済)

- ・所蔵場所の変更(閉架→開架への変更、開架にあるべき資料の確認)
- (3月図書整理日に実施予定)
- ・書架での案内を増やす(棚の見出し板部分、棚側面の旧雑誌案内部分を使う)
- (来年度以降実施予定)
- ・収集するとよいとされる資料については選書会の際の参考意見として取り入れる
  - ・見出し版の設置、分類記号の改訂が必要と思われるものについては順次行う